

長崎医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

幽門側胃切除後の尾側脾切除の安全性に関する検討 - 国内多施設共同研究 -

[研究責任者]

国立病院機構 長崎医療センター外科 医師 濱田 隆志

[研究の背景]

幽門側胃切除の既往のある方で、脾体尾部切除術が必要になる場合があります。その際、脾切除に伴って残胃の血流が低下するため、術後早期に残胃炎や残胃潰瘍、胃内容停滞、胃穿孔などの術後合併症を非常に稀ではありますが、生じることもあります。このような術後合併症の発症に影響を及ぼす原因を明らかにすることができれば、より質の高い安全な脾切除、ならびに術前・術後の対応策を講じることができます。本研究で、脾体尾部切除術が残胃に虚血をもたらす要因を明らかにし、今後のより安全な周術期管理および外科療法の改善に役立てたいと考えています。

[研究の目的]

本研究で、脾体尾部切除術が残胃に虚血をもたらす要因を明らかにし、今後のより安全な周術期管理および外科療法の改善に役立てることを目的とします。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2009 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日に幽門側胃切除術の既往があり、かつその後脾疾患にて尾側脾切除術を受けた患者さん

●具体的方法

カルテ情報（診断名、年齢、性別、身体所見、幽門側胃切除術の術式・原疾患・手術日、血液検査、画像検査、術後経過、脾臓手術の術式、病理結果など）を分析します。

●情報の管理

カルテ情報は長崎医療センター内で集計が行われ、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。集計された情報は島根大学医学部消化器・総合外科学講座へ郵送され、解析されます。収集したデータは、島根大学医学部消化器・総合外科学講座の外部から容易にアクセスできないパソコンで厳重に管理します。研究対象者（患者さん）の識別は研究用の識別番号により行います。個人情報が識別できないようにその対応

表は収集データとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管します。研究に関するデータ及び関連資料は研究の終了を報告してから少なくとも 5 年間保管し、その後匿名化した状態で廃棄（消去）します。

●研究期間

研究許可後、2025 年 12 月 31 日まで

[研究組織]

この研究は島根大学医学部消化器・総合外科学講座が主体となり、全国の日本脾切研究会参加施設と共同で研究を行います。

●研究代表者（研究の全体の責任者）：

島根大学医学部消化器・総合外科学講座

田島 義証

[個人情報の取扱い]

研究に利用する当院患者さんの情報は国立病院機構 長崎医療センター外科 医師 濱田 隆志 が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学会や学術雑誌で発表されます。

[問い合わせ先]

国立病院機構長崎医療センター

外科 医師 濱田 隆志

電話番号：0957-52-3121